

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●有馬記念はミュージアムマイルが優勝

2025年12月28日(日)に行われた有馬記念(G I)ではミュージアムマイル(牡3歳/栗東・高柳大輔厩舎)が優勝、皐月賞に続く2つ目のG Iタイトルを手に入れました。

●ホープフルSはロブチェンが優勝

2025年12月27日(土)に行われたホープフルS(G I)では、新馬戦を勝ち上がったばかりのロブチェン(牡2歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が優勝しました。本レースがG Iに昇格して以降、キャリア1戦馬の優勝は史上初のこととなります。

●中山大障害はエコロデュエルが優勝

2025年12月27日(土)に行われた中山大障害(J・G I)では、春の中山グランドジャンプに続いてエコロデュエル(牡6歳/美浦・岩戸孝樹厩舎)が優勝しました。同一年のJ・G I連覇は2015年アップトゥデイト、2016年・2017年オジュウチョウサンに次いで史上3頭目・4例目のこととなります。

●上野翔騎手がJRA障害通算1000回騎乗を達成

2025年12月27日(土)に行われた中山大障害(J・G I)でフェーレンベルクに騎乗した上野翔騎手(美浦・フリー)は、史上21人目・現役8人目となるJRA障害通算1000回騎乗を達成しました。

●丹内祐次騎手がJRA年間1000回騎乗を達成

2025年12月28日(日)の5回中山8日・第3レースでイーリスアスターに騎乗した丹内祐次騎手(美浦・フリー)は、JRA年間1000回騎乗を達成しました。2010年など計4回達成の幸英明騎手、2014年の北村宏司騎手、2015年の岩田康誠騎手、2017年の和田竜二騎手に次いで史上5人目の記録となります。

●岩田望来騎手がJRA通算600勝を達成

2025年12月28日(日)の5回阪神8日・第2レースではデアヴェローチェが1着となり、岩田望来騎手(栗東・フリー)は、史上85人目・現役31人目となるJRA通算600勝(5306戦目)を達成しました。

●田中健騎手が引退

2025年12月31日(水)付で田中健騎手(栗東・中村直也厩舎)が引退しました。JRA通算成績は3645戦162勝で、今後は中村直也厩舎で調教助手となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●東京大賞典(大井)は大波乱、単勝77.3倍の地元馬ディクテオン

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2,000万円)は、8番手から差を詰めた7番人気のJRAから大井への移籍馬ディクテオン(矢野貴之騎手、騾・出走時7歳、父キングカメハメハ)が、先に抜け出した単勝1.4倍で圧倒の人気のミッキーファイトをゴール前でクビ差捉えました。アウトレンジが3着に入り、キングズソードは4着、ホウオウルーレットは5着、2番人気のナルカミは6着、グランブリッジは8着、逃げた3番人気のナチュラルライズは11着に敗れています。

●東京大賞典の売上が地方競馬の1レースの新記録に

東京大賞典の売上は、前年比104.8%の99億5017万1600円で、地方競馬の1レースの売上記録となりました。うちJRAネット投票は51億5694万8500円と、全体の51.8%を占めています。また、当日の12月29日の売上は、前年比99.8%の139億3232万4750円で、地方競馬の1日の売上では前年同日に次ぐ史上2位。JRAネット投票は64億9145万8600円で、構成比は46.6%でした。

●2025年地方競馬リーディングは打越勇児調教師、笹川翼騎手

2025年の地方競馬リーディングは、トレーナーが190勝で打越勇児調教師(高知)、ジョッキーは350勝の笹川翼騎手(大井)でした。また、地方競馬リーディングサイアーは総合がホッコータルマエ、2歳はモーニンとなっています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1マリブS〜ゴールオリエンテッドが追い込み決める

2025年12月28日にアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1マリブS(3歳、ダート1,400メートル)はJ.ロザリオ騎手が手綱をとったゴールオリエンテッド(牡3歳、父ノットディスタタイム、B.バファート厩舎)が最後方追走から直線で突き抜けて優勝。G1初制覇を果たしました。ゴールオリエンテッドは2025年4月のデビュー戦(ダート1,200メートル)と5月の一般戦(ダート1,700メートル)を連勝。しかしその後はG1プリークネスS4着、G1ハスケルS3着、G1ペンシルベニアダービー3着、そして前走のG1BCダートマイル6着とG1で4連敗を喫していました。

●G1アメリカンオークス〜アンバヤがG1初制覇

上記マリブSの1レース後に同じサンタアニタパーク競馬場で行われたG1アメリカンオークス(3歳牝、芝2,000メートル)は怪我で騎乗を取り止めたA.フレス騎手から急きょ乗り替わった木村和士騎手を背にしたアンバヤ(牝3歳、父ゴーストザッパー、J.トーマス厩舎)が中団追走から差し切り勝ちを収めました。アンバヤは2025年6月のデビュー戦(芝1,600メートル)に優勝。その後は7月の一般戦2着、9月のクリスティアナS3着、10月の一般戦2着、11月の一般戦も4着と連敗していましたが、重賞初挑戦でG1タイトルを手に入れました。